

2024年3月期 第1四半期 決算説明補足資料

2023年8月14日

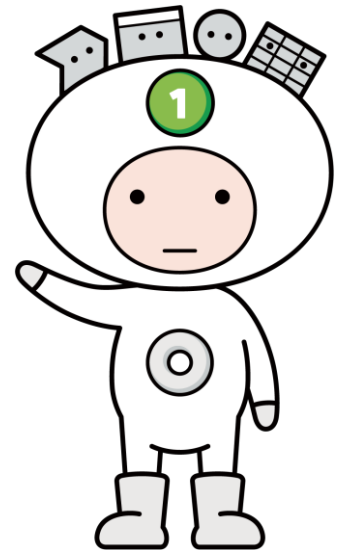
株式会社BlueMeme



目次

2024年3月期 第1四半期決算業績	-----	P 3
2024年3月期 通期業績予想	-----	P 12
主要なトピックス	-----	P 14
補足資料	-----	P 19
注意事項	-----	P 22

(注) 当資料における金額表記は小数点以下切捨てとし、原則パーセンテージ表記は小数点第2位を四捨五入としております。



First Quarter Results for the Fiscal Year Ending March 31, 2024

2024年3月期 第1四半期決算業績

2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト



売上高

第1四半期

6億1,734万円

前年同期比率

122.8%

進捗率

23.3%



営業利益

第1四半期

8,082万円

前年同期比率

176.1%

進捗率

26.1%

- 売上高は、既存顧客に対する継続案件の拡大、及び新規案件の獲得を中心に対前期比で22.8%増加した。
- 営業利益の増大は、一部既存顧客によるアップグレードを中心としたライセンス売上増が要因である。

四半期別売上高、営業利益の推移

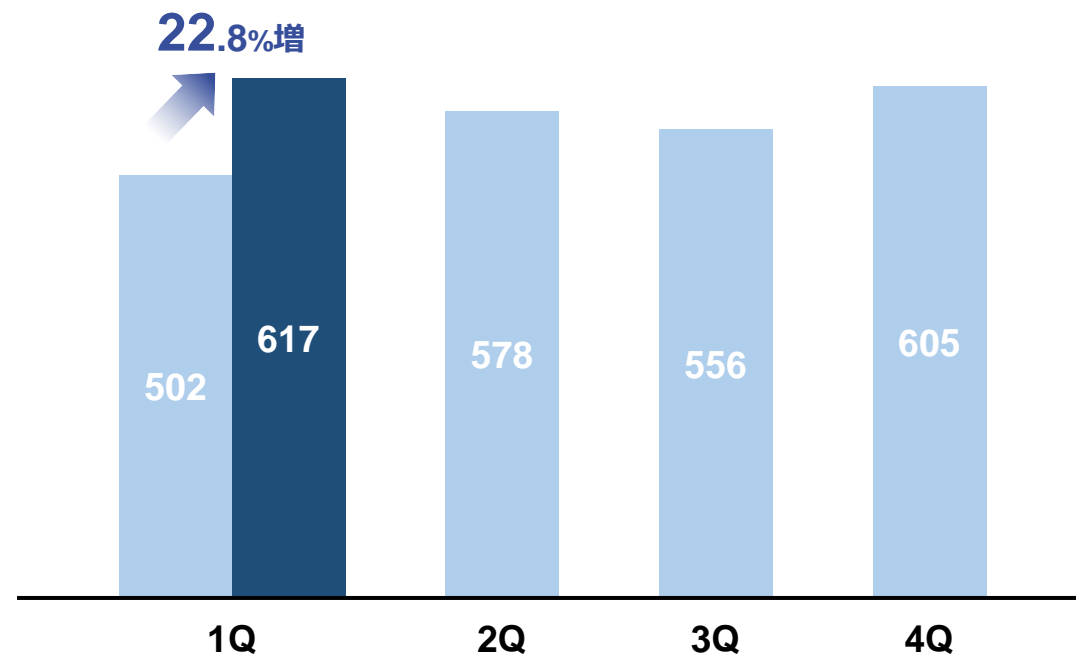
- 売上高は、対前年同期比で堅調に増加した。
- 営業利益は、ライセンス売上の増加により対前年同期比で約76%の増加となった。

単位：百万円

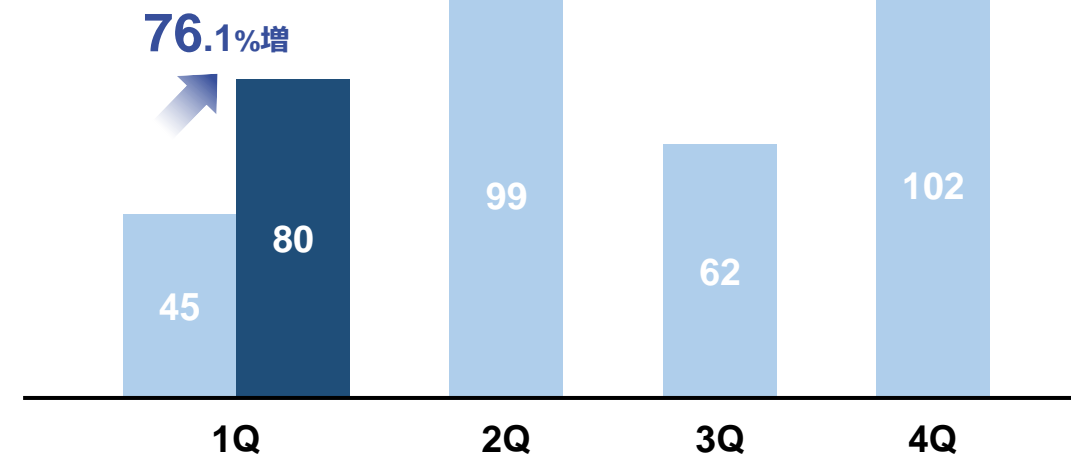
■ 2023年3月期

■ 2024年3月期

売上高



営業利益



2024年3月期 第1四半期 業績

- 顧客の積極的なIT投資が追い風となり、**売上高は引き続き拡大**した。
- 研究開発等の積極的な投資は前年より継続しているが、ライセンス売上等の増加により**営業利益は対前期比で増加**となった。

単位：百万円

	2023年3月期 第1四半期 実績	2024年3月期 第1四半期 実績	対前年同期 増減率
売上高	502	617	22.8%
営業利益	45	80	76.1%
営業利益率	9.1%	13.1%	—
経常利益	45	81	79.6%
当期純利益	30	47	56.6%

(注) 金額は百万円未満切捨。

提供しているサービスとソフトウェアの売上構成比（2024年3月期第1四半期）

- 引き続き、主力であるプロフェッショナルサービスの販売が約80%を占めている状況は変わらない。
- BlueMemeが直接引き合いを受ける直接／間取引の比率も、直接販売が約80%と引き続き高水準となっている。

サービス別の販売割合

プロフェッショナルサービスの販売：**80.4%**

ソフトウェアの販売：**19.6%**

自動化技術によるシステム開発サービスの提供

ローコード製品
OutSystems

ローコード技術者の教育と認定試験

その他のソフトウェア

取引方法による割合

直販：**79.6%**

パートナー：**20.4%**

エンドユーザーへ直接販売している
ソフトウェアとサービス

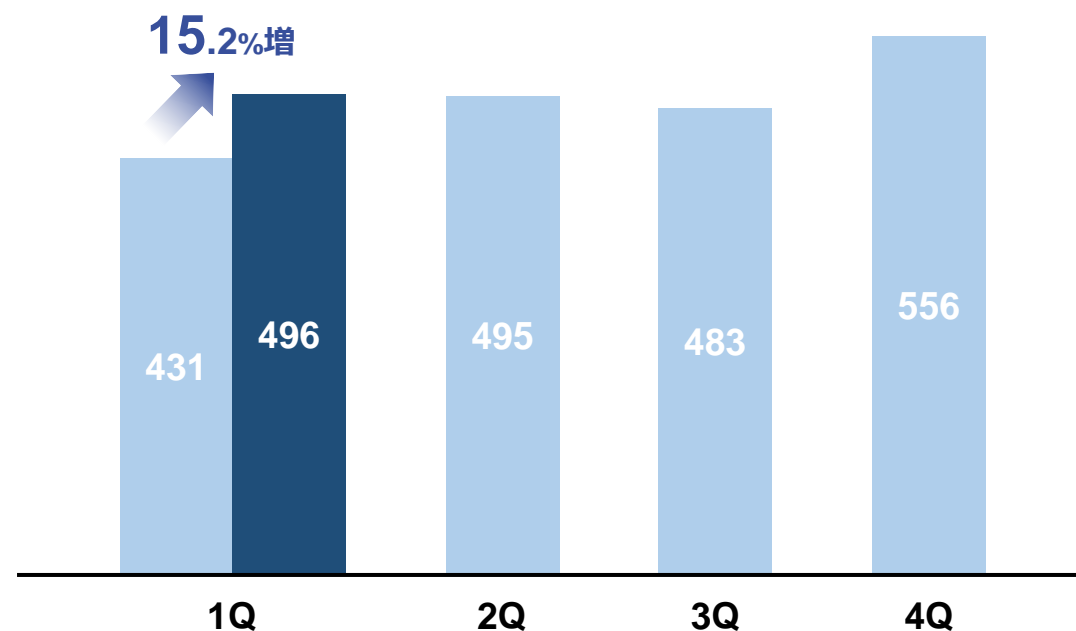
販売パートナー
経由のソフトウェア
とサービス

サービス別四半期売上高の推移

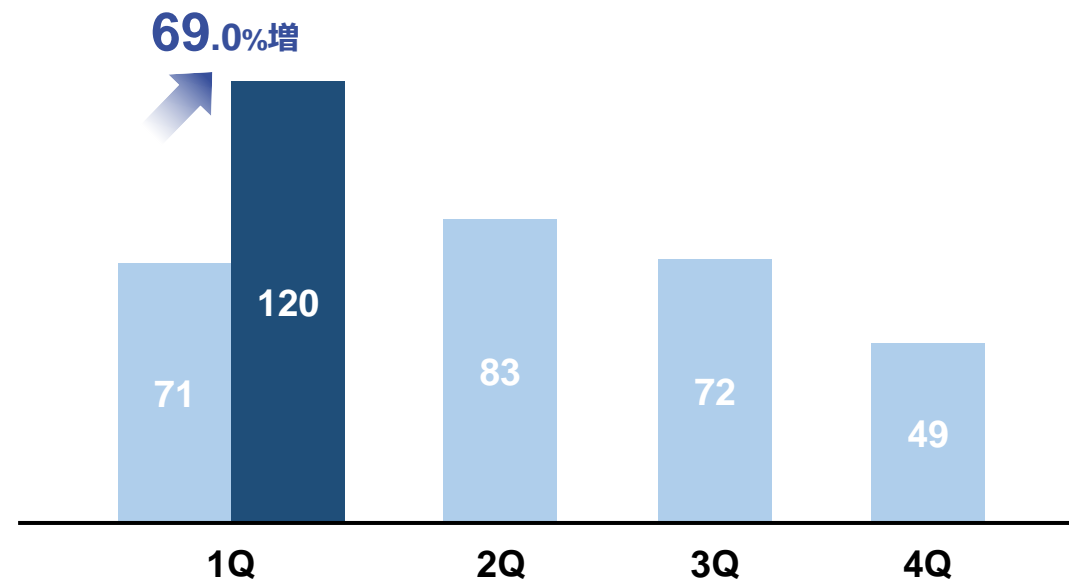
- プロフェッショナルサービス売上は、安定的に対前年同期比で成長を継続している。
- ソフトウェアライセンス販売売上は、顧客の積極的なIT投資により、対前年同期比で69%増加した。

単位：百万円
■ 2023年3月期
■ 2024年3月期

プロフェッショナルサービス

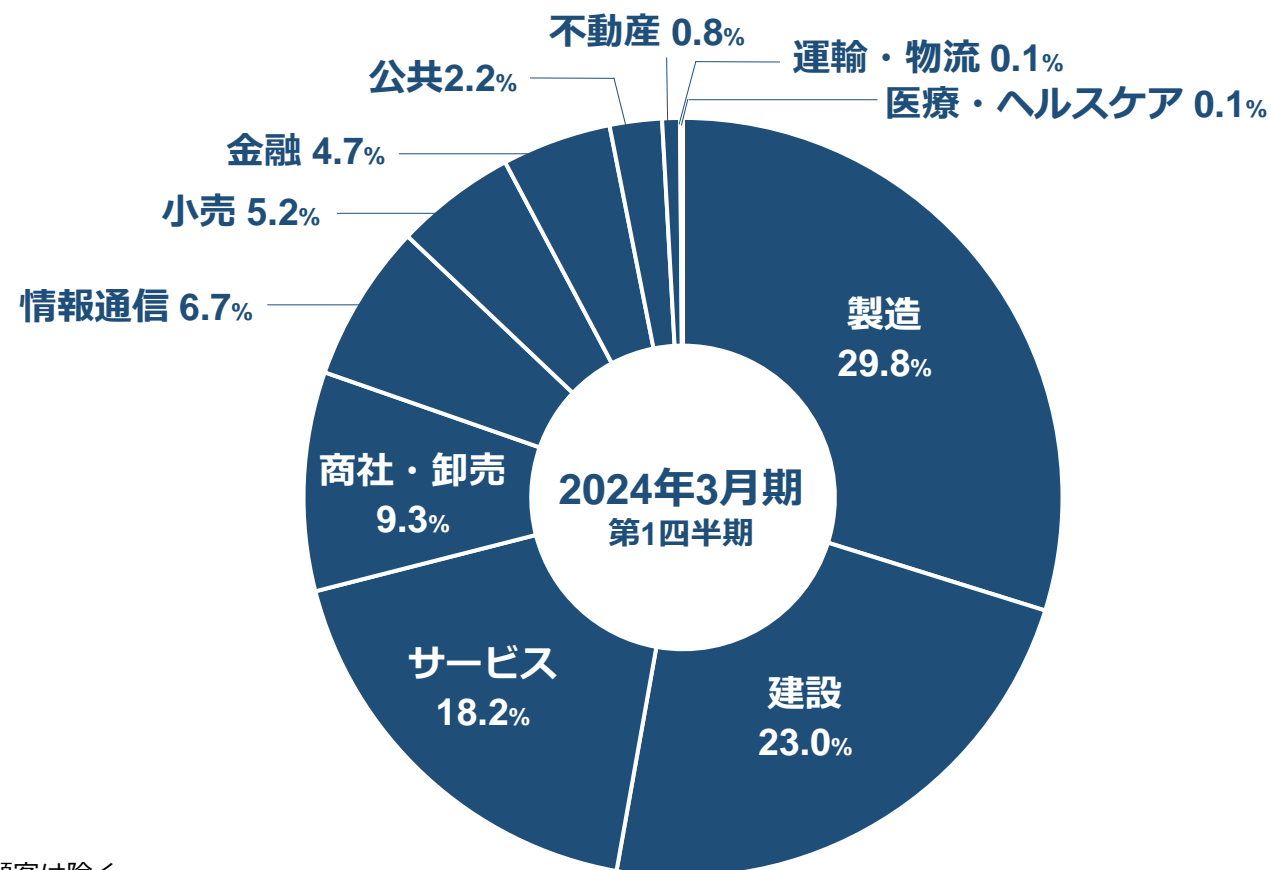


ソフトウェアライセンス販売



顧客業種別受注高割合（2024年3月期第1四半期）

- 当社グループが提供しているサービスは特定の業種・業界に特化はしていないものの、顧客層は製造・建設・サービス業が中心である。



(注) 割合が僅少のトレーニングサービス顧客は除く。

営業利益の増減分析

- 今後の成長加速の為の先行投資を引き続き実施した。
- 営業利益は、技術者を含む人材の採用・育成の前倒しによる採用費・教育関連費等の増加と、デジタルレイバー等新サービスの導入を見据えた開発及び量子コンピュータによるゲノム解析に関する共同研究により経費を計上したが、ライセンス売上が好調だったことから**76.1%増**で着地した。

営業利益の前年比較

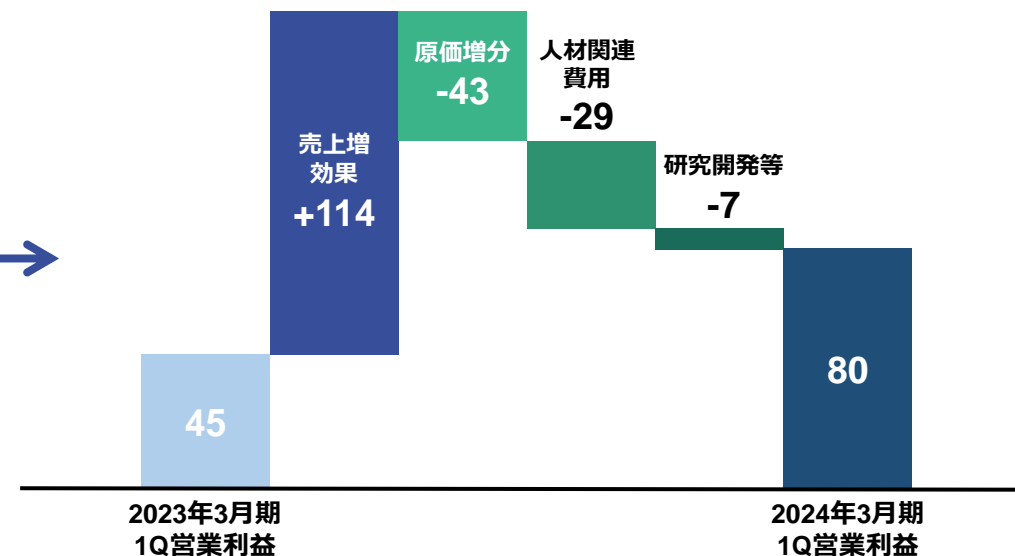
単位：百万円

	2023年 3月期 1Q	2024年 3月期 1Q	増減額	前年同期比 増減率
売上高	502	617	114	22.8%
営業利益	45	80	34	76.1%
経常利益	45	81	36	79.6%
当期純利益	30	47	17	56.6%

(注) 金額は百万円未満切捨。

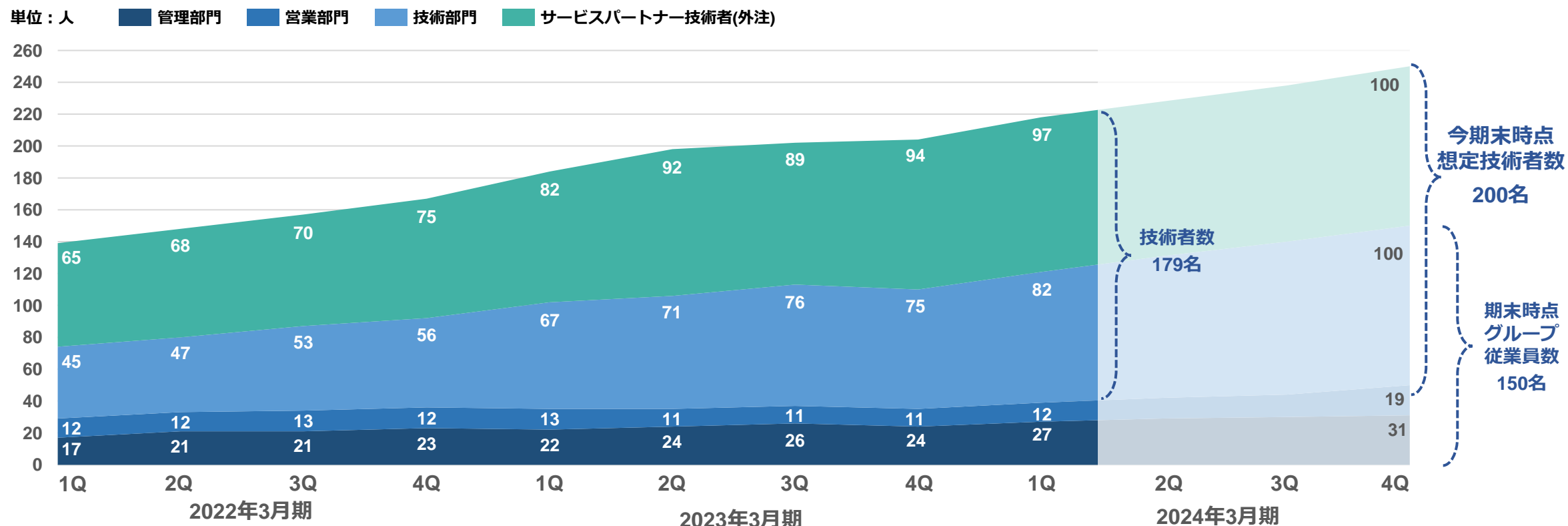
営業利益の増減要因分析

1Q営業利益の増減分析



当社グループの人員数の推移と内訳

- 従業員数は、前期末比で11名増加し121名となった。
- プロフェッショナルサービスを担う技術者は、新卒及び中途の未経験者の採用と育成を軸に、7名増加し82名となり、サービスパートナー技術者を加えた当社グループ全体の当四半期末時点の技術者数は179名となった。



Financial Forecast for Fiscal Year Ending March 31,2024

2024年3月期 通期業績予想

通期業績予想

単位：百万円

	2024年3月期 第1四半期	2024年3月期 通期予想	対通期進捗率	*ご参考 2023年3月期(実績)	*ご参考 対前期増減率
売上高	617	2,650	23.3%	2,244	18.1%
営業利益	80	310	26.1%	309	0.0%
経常利益	81	310	26.4%	310	-0.1%
当期純利益	47	230	20.7%	230	-0.1%

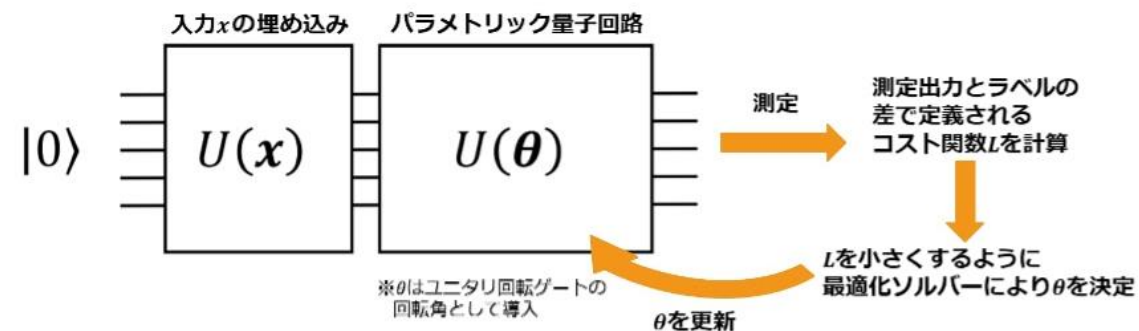
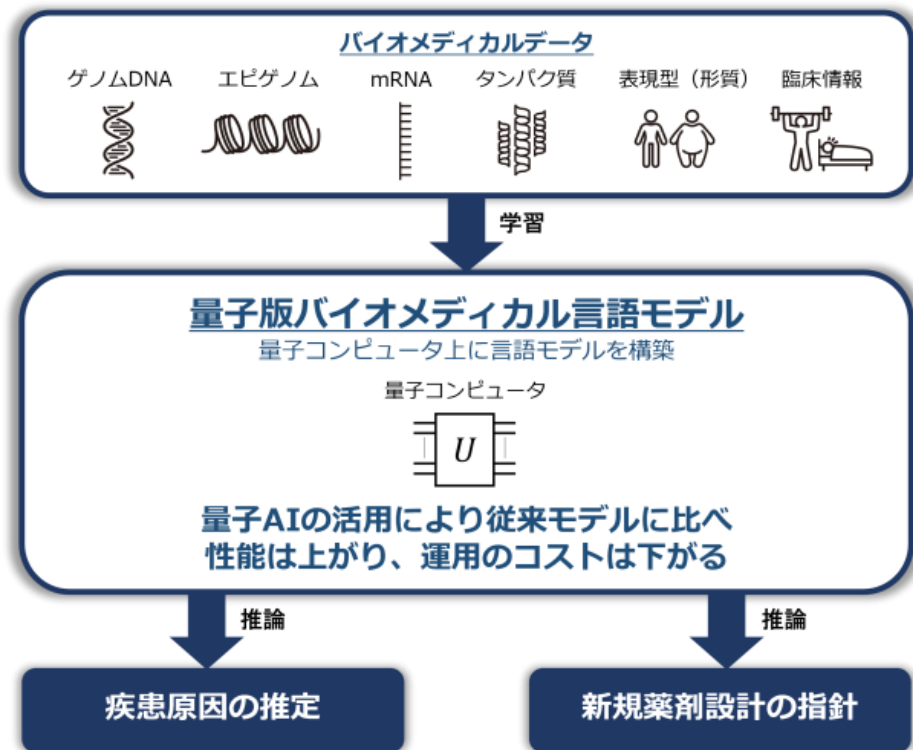
(注) 金額は百万円未満切捨。

Topics

主要なトピックス

量子コンピューティングを用いたバイオメディカル情報解析分野への取り組み

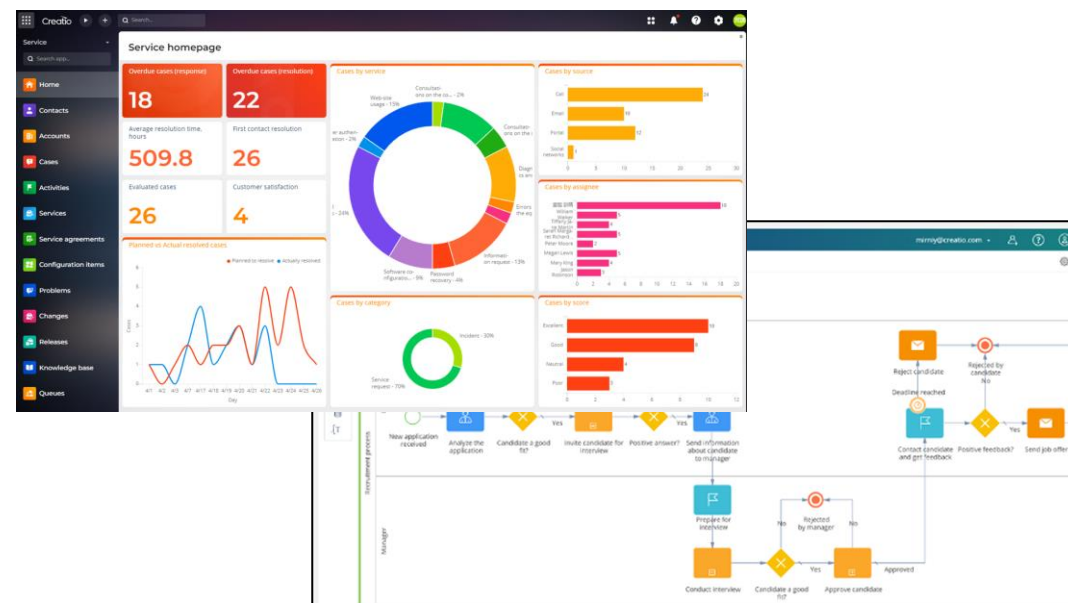
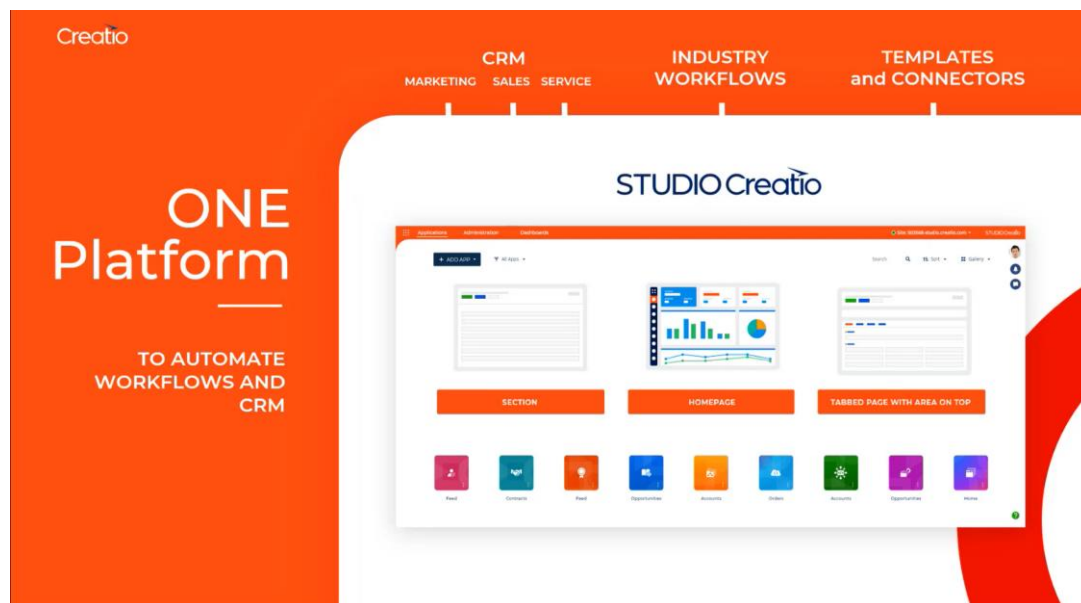
九州大学生体防御医学研究所と共同で医療研究や臨床治療に活用できるバイオメディカル言語モデルの開発に着手した。バイオメディカル言語モデルの生成に、量子コンピューターを用いた量子AI技術を活用することで、現在莫大なコストを費やしている**大規模言語モデルの作成に必要なコンピューターリソースを大幅に削減**できる技術の開発を目指す。



一般的なニューラルネットワークでは、ニューロンが持つパラメータを微調整しながら学習させるが、量子AIの場合は、「回転ゲート」という、量子ビットをいろいろな角度に回転させるように操作するゲートの回転角度をパラメータとみなして学習させていく。量子AIは、ニューラルネットワークと比較して、**言語の意味理解や生成という文脈探索のタスクにおいて優れた能力を発揮することができる**と言われている。

OpenModelsとCreatio、国内独占代理店契約を締結

- OpenModelsは、エンタープライズ向けのマーケティング及びセールス領域向けのノーコード開発基盤で市場をけん引する米国Creatio Inc.と日本国内における独占代理店契約を締結した。
- Creatioの国内企業向けの販売拡大を目指し、セールスパートナー組織の構築・運営や日本国内向けのローカライズ、教育プログラムの開発・提供等、様々な取組みを開始した。
- さらに、BlueMemeグループのエンタープライズ向けのアジャイル開発手法等の知見と組み合わせることで、大企業から中小企業まで幅広いユーザーに向けて、Creatioを利用頂ける環境を整備する。



地域DX人材育成促進に向け、熊本県及び熊本市と立地協定を締結

- 熊本オフィスの開設により、シチズンデベロッパー（ソフトウェア開発者としての市民）を増やし、システムの受託開発や内製化支援を通して、新たなDX人材の育成を推進予定。
- 市民向けには、ノーコード・ローコードで学習コストを低減し、リモートワークが可能な高単価なIT人材へのシフトを加速させる。
- 地場企業向けには、業務分析の手法を提供することで業務改善を促すだけでなく、ローコードを活用した内製化支援を行い、柔軟なシステム開発及び変化に強い組織への変革を促進する。



琉球大学のプロジェクトで開発工数を約70%削減

- BlueMemeとその完全子会社であるOpenModelsは、琉球大学が取り組む社会課題の解決のために「AGILE-DX」を提供した。
- AGILE-DXを適用することにより、わずか3名のプロジェクトメンバーで、設計からリリースまで3カ月という短期間での開発を実現した。
- 当初計画と比較して、プロジェクト全体の工数が約70%削減された。

BlueMemeグループ、
琉球大学のプロジェクトで
ローコード×アジャイル手法により、
開発工数を約70%削減

当社独自の開発方法論「AGILE-DX」の提供で、
地域の社会課題解決を支援

bluememe openmodels 琉球大学

The graphic features a dark blue background with three large, light blue arrows pointing upwards and to the right. At the bottom, there are logos for bluememe, openmodels, and the University of the Ryukyus.

AIで“子どもの貧困対策”を支援 RBC NEWS Link

既存のシステムと協調し、業務のDX化を促進！ 琉大などが開発

琉球大学
きょう

寄付の窓口で導入中の物流管理システム

受取を希望する子どもの居場所が入力

AIアプリ「うむゆい」

昨年度 SDGsの社会課題解決に向けた
プロジェクトの一環 学生と企業が連携し開発

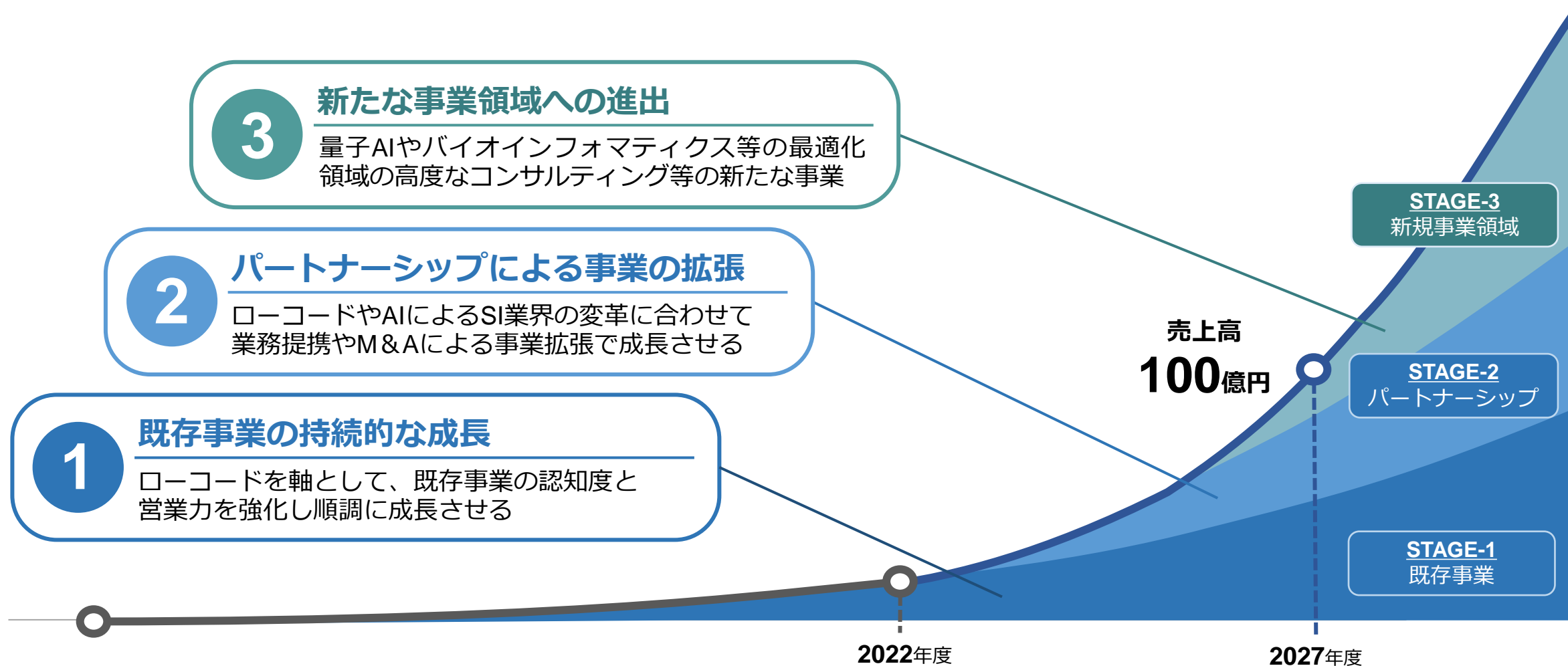
The graphic shows a screenshot of a website or application interface. It includes text about AI support for poverty relief, logos for the University of the Ryukyus and RBC NEWS Link, and images of children and a food distribution system. A banner at the bottom highlights the project's contribution to SDGs.

(引用) RBC NEWS Link : 「貧困対策の一助になるか 食料品の適正配分を計算するAIアプリを大学生らが開発」 : 琉球放送, 2023年4月27日放映 <https://www.youtube.com/watch?v=cY1WgWmtQ5g>

Topics

補足資料

成長戦略と売上高のイメージ

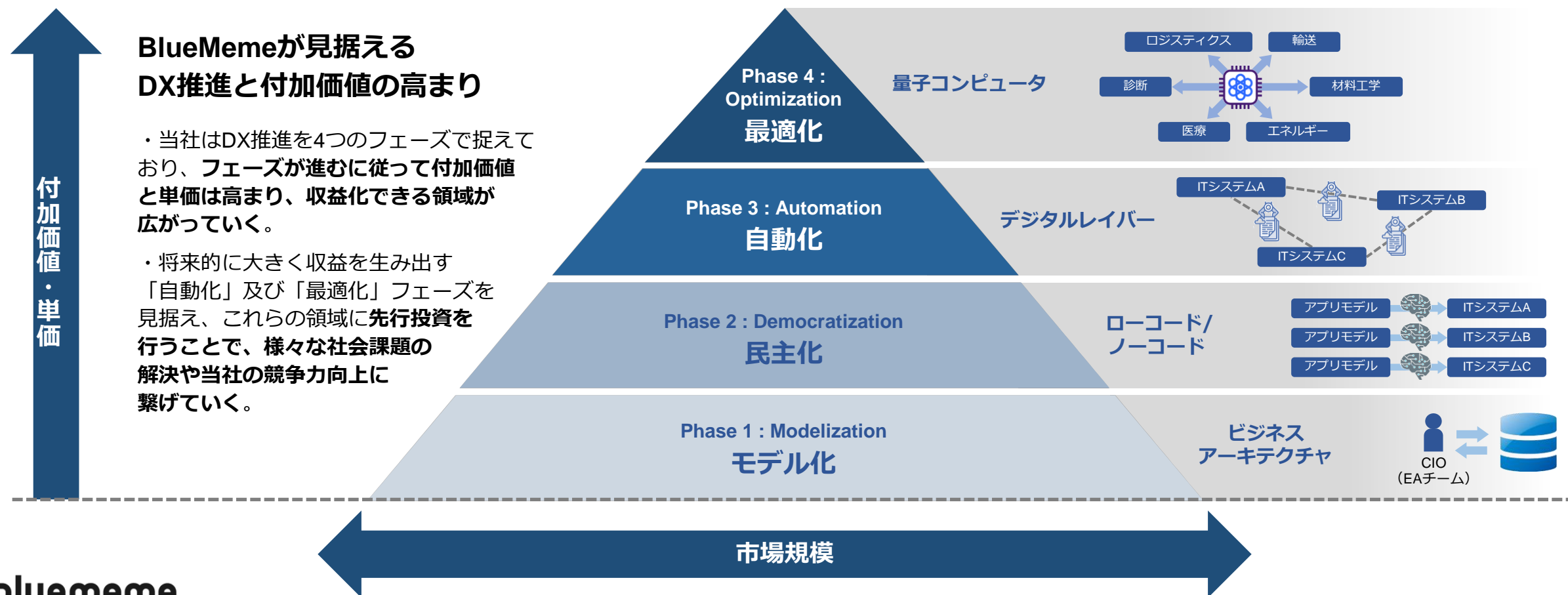


* 既存事業の成長は年率16~21%と想定（市場成長率16%に当社の市場優位性を5%程度と想定した）

* 2028年3月期における既存事業（STAGE-1）の売上と施策による上乗せ分（STAGE-2・STAGE-3）の比率は、5：5から6：4程度と推測

さらなる成長を見据え「デジタルレイバー」と「量子コンピュータ」への人的投資を加速

- デジタルレイバー：AIの活用によりシステム開発のさらなる自動化をはかり、当社開発体制のデジタル化を加速させる。
- 量子コンピュータ：ゲノム解析に関する共同研究を始めとして、あらゆる分野への最適化実現に寄与する。



注意事項

本資料には将来の見通しに関する記載が含まれております。これら将来の見通しに関する記載は本資料の日付時点の情報に基づき作成しており、将来の結果や業績を保証するものではありません。これら将来の見通しに関する記載には様々なリスクや不確定要素が含まれております。このため、実際の業績や財務状況は、将来の見通しに関する記載によって明示的あるいは暗黙的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

こうした可能性が生ずる要因には国内外の経済状況の変化、当社グループの属する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

当社グループは、将来の見通しに関する記載の、本資料の日付以降に発生する可能性のある新たな情報や将来の事象に照らしてこれら将来の見通しに関する記載を変更あるいは訂正する一切の義務を負うものではありません。

本資料に記載される当社グループ外の事項・組織に関する情報は、一般に公開される情報に基づいており、当社グループはこれらの情報の正確性・適切性を検証しておらず、保証していません。



Thank you for your time and attention.